

行政視察報告書

令和7年 7月24日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員 千 田 貞 之

私が参加した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 「議会運営委員会 視察研修」
2. 視察日時 令和7年7月3日（木）～4日（金）
3. 視察先及び目的
 - ①「静岡県富士市議会」
 - 議会改革の取組・議会における事業評価について
 - ②「埼玉県所沢市議会」
 - 議会改革の取組・議会評価・議員間討議について
4. 調査内容感想等
 - ①「富士市議会」では、6月定例会会期中に対象事業を選定し、9月定例会において、決算審査と合わせ評価を行う。予算決算委員会協議会で決定するが、対象事業の選定から評価までの具体的な協議は各分科会でおこなう。
 - ②「所沢市議会」では、議会の事業評価を議会運営員会、公聴広報委員会により所管事業の自己評価を行う

・研修の目的

- ① 富士市議会における議会運営の流れを知り、長浜市議会にどう生かすか検証をする。 参考になることを見つけ、検証をする。

② 所沢市議会においては、議会改革基本条例を平成 21 年度より行われ、その後、都度、条例の一部改正が行われてきた。部会方式を導入し、専門的知見の活用や、評価、改定などを繰り返し進められてきた。

・研修の内容

① 先ず、常任委員会が 5 つに分かれていて、より専門性が問われているように思う。更に、定例議会において、一般質問は、議案審議などが終わった後に行われている。前半で、補正予算など当年度における議案を扱い、その後、代表質問、一般質問を行う。9 月議会は、前半で前年度決算、後半でその他議案を取り扱う。一般質問は、答弁を含め 60 分、回数制限なし。

9 月定例会では、決算審査と合わせ、評価が行われている。5 月から評価対象事業の提案、選定を行い、各分科会で執行部からの資料提示、協議を行い、評価の質疑、作成、決定、確認などを行い 9 月定例会の最終日に市長に評価提出、翌年 2 月に反映状況個票を提出。市の小事業、約千事業の中で評価対象事業の選定には苦慮されている。

② 所沢市議会においては、議会の事業評価がなされ、議会運営委員会、広聴広報委員会により所管事業の自己評価がされている。

議会評価をされることにより、一年間の主な事業の総括の機会とされている。それにより、事業の記録公開と協議事項の共有が可能で、自己評価の達成度が明確になる。又、議会基本条例の見直しを常にされ、改選期ごとに、実施、未実施を含めた目的度達成、今後の方向性の検討がされている。

議会において、自由討議を行い、委員から動議を出し、委員長が委員に諮りそれぞれの委員の意見、考えを明らかにし、委員会審査の一環として記録に残す。等、あらゆる角度、視点で議会などでの情報共有や、政策提言などに生かされている。

・研修の結果を本市にどのように反映させるか

① 富士市の例を参考に、決算委員会において、事業評価をすることは本市でもできるのではないかと。まず、対象事業の選定、調査確認等時間はかかるが、できる事からしてはどうか。そのためには、執行部とも調整をし、この事業の意義を明確にして、無駄な経費の削減、費用対効果の検証にできると思う。昨今の人口減少、基金の減少等、対策の一定の成果につながると思う。このことから議会の存在感を明確にしたり、執行部の緊張感にもつながると思う。

② 所沢市の例は、本市議会ではハードルが高いように思う。このような、議会改革を中心に行うには、一定の議員の資質向上、人数、専門性も要求されると思う。本市議会のように、地域性があり、地域課題も多くあり、合併時よりの格差がある状況の中では、厳しい現状もあるのではないかと。大規模な都市部との違いだけでなく、おかれている環境、課題、専門性、議員のレベル、あらゆることでの温度差がありすぎると思う。しかしながら、先進地を視察し、立場を理解し、今、本市での取組、現状を鑑みて、議員らしく、議員として市民に分かりやすく伝えることの大切さなどを、自分自身生かしたい。